

## 令和5年度第2回沖縄県の地域外交に関する万国津梁会議 議事概要

## 【第1回会議での議論の確認・整理】

## 【君島委員長】

## ● はじめに

- 万国津梁会議の役割としては、万国津梁会議の10名の委員がまとめる提言書の作成である。
- 地域外交基本方針は沖縄県の地域外交室が主体となって作成し、万国津梁会議はそれに対して、意見を述べることができる。
- 地域外交基本方針を作成するのは、あくまでも主体は地域外交室である。
- 第2回万国津梁会議は、前半が、万国津梁会議として提言書として委員の意見をどのようにまとめるかという部分となり、後半が、沖縄県の地域外交室が主体となって作成する地域外交基本方針に対して、我々の意見を地域外交室にコメントを述べるという部分となる。

■提言書のストーリー案について

## 《君島委員長》

- 第1回万国津梁会議に基づいて事務局が作成した「資料3 地域外交基本方針（仮称）の骨子案」にストーリー案①と案②についての意見を伺いたい。

## 【官澤委員】

- ストーリー案①とストーリー案②の要素はほぼ同じ。どちらの案でもよいと考えているが、情報の伝え方と構成が重要である。
- 沖縄県民に地域外交のメリットをわかりやすく伝えるべきである。
- 沖縄県独自の強みを強調し、地域外交を推進するという意味ではストーリー案①がより説得力がある。

## 【小松委員】

- 提言書のストーリー案①、ストーリー案②のどちらが良いかとの議論だと思うが、前回の「沖縄県の地域外交の基本的な考え方について（案）」とほぼ同様のストーリーとなっている。
- 「沖縄県の地域外交の基本的な考え方について（案）」は歴史から紐解いて、沖縄県の持つオリジナリティーを現代に向かいながら乗せるストーリーが書いてあり良くできたストーリーだと思う。
- 提言書のストーリーはそれと同じでよいのか、それとは別でなければいけないのか確認したい。

**(君島委員長コメント)**

- 基本方針のストーリーと提言書のストーリーとの2つの関係について事務局の見解を確認したい。

**(事務局の回答)**

- 提言書のストーリーは、基本方針のストーリーと同じでも、別のストーリーでも良い。最終的な判断は、万国津梁会議で委員の皆様にもまとめていただきたい。

**【倉科委員】**

- 基本的な要素的は、一緒なのであまり変わらないと思う。
- ストーリー案①は、沖縄の強みをベースに地域外交のコンセプトを明確化するものであるが、沖縄の強みの背景には琉球王国時代からの歴史の中で培ってきたものではないかと思うので、ストーリー案②が良いと思う。

**【高山委員】**

- ストーリー案②の方が良いと思うが、「地域外交とは」の部分は吟味する必要がある。
- 自治体の自立性として地域が主体的に国際交流を図るという文言を追加したい。

**【富川委員】**

- ストーリー案①、案②の違いがわからないのでどちらも良い。
- 沖縄 21 世紀ビジョン基本計画があって、それを地域外交によってどれだけ補完して、推進できるかということを書いてもらいたい。
- 社会科学で言うウェルフェアは「社会的オペレーションの幸せ」つまり「政策的に展開できるハピネス」ということであり安全保障に当たる。安全保障、経済、すべての面で県民が良くなる地域外交ということに帰結するところに焦点を絞ってまとめ欲しい。

**【久保田委員】**

- ストーリー案②の方が良いと思う。
- ストーリー案①の沖縄型地域外交の目的に「魅力発信し進めるものである」とあるが、外交戦略の直接の目的とは違うと思う。
- 両方の案について指摘したいのは、一体誰に発信しているのか、誰を巻き込みたいのかという点。
- 沖縄が地域外交戦略を作るのであれば、未来志向、かつ、若い世代を巻き込んでいくところに焦点をおくのが望ましいと思う。
- 今までの経緯よりも、あるべき姿（ビジョン）と巻き込みたい層をわかりやすく伝えられたら良いと思う。

**【井瀧副委員長】**

- ストーリー案①の方がずっと入りやすい。
- 歴史的背景も大切な箇所のため、ストーリー案②でも問題ないと思う。

**(事務局への質問)**

- 提言書が、誰に伝える提言か分かりかねている。
- 県民に伝えるものか、地域外交室に対してのみ伝えるものかによって、表現、記載内容が変わる事に留意が必要。

**(事務局の回答)**

- 提言書の直接的な役割は、政策提言として県知事に届けて、それを踏まえて県の担当部署が理解し、政策に反映できるような内容であれば足りることになるが、沖縄県の地域外交の取組は、民間の幅広い関係主体と一緒に進めたいので、関係者に分かりやすく伝えられるものにしたい。

**【水澤委員】**

- ストーリー案①とストーリー案②のどちらも良いと思うが、ストーリー案①の方がずっと入って来た
- ポイントは表現と内容が県民に分かりやすく、参加しやすいものが良いと思う。
- ストーリー案②の歴史的な背景も重要なので、ストーリー案②となる場合は、もう少し県民に分かりやすくなると良い。

**(事務局への質問)**

- 万国津梁会議の提言書は、知事に提出されるまでにパブリックコメントなどで県民に意見を聞く機会があるのかお伺いします。

**(事務局の回答)**

- パブリックコメントなどで県民からコメントをいただくということは、想定していない。
- 今回の万国津梁会議の資料や議論の内容はホームページにも掲載し、すべて公開している。  
それらを読覧した方から意見をいただいた場合は、次回の会議で議論していただければと思う。

**(水澤委員のコメント)**

- 私から資料や議論の内容について、他の NGO や専門家の方に意見を求めて、この会議で紹介することは OK ということでよいか。

**(井瀧委員からの質問)**

- 基本方針策定の流れの中では、パブリックコメントなどで県民に意見を聞く機会があるという理解でよいか。

**(事務局の回答)**

- はい。基本方針を定めるにあたっては、来年の 1 月中旬までにまとめて、それから 1 ヶ月弱ぐらいの期間を取ってパブリックコメントを取る予定になっており、それを踏まえて最終的に基本方針を決定する予定となっている。

**【意見交換・議論「沖縄県の地域外交の方向性について」】****1. 地域外交の定義等について****【倉科委員】**● **【定義】****(1) 「地域外交とは」について**

- 沖縄の地域外交は、国家間の外交を補完するということだけではなく、国の外交にも貢献できるというもっとプラスの書き方ができるのではないかと思う。
- 例えば日本政府が推進している FOIP（自由で開かれたインド太平洋の考え方）において、沖縄はパラオ以外の太平洋島嶼国のみならず地理的・歴史的観点でも ASEAN の国とも関係を深めるポテンシャルは大きく、国の政策に貢献できる要素がある。

**(2) 「沖縄型地域外交とは」について**

- 沖縄型地域外交の主体は、自治体も含む、企業、NGO、市民などではないか。県だけでできることには限りがあって、その総力が沖縄の力であり、沖縄型地域外交になると思う。
- 県がその方針をみんなに発信し、みんなで行っていくのだという書き方、作り方になっていると良いと思う。

**【富川委員】**● **【策定の目的】**

- 万国津梁会議の目的は、新沖縄 21 世紀ビジョン基本計画を地域外交が補完し、拡充することだと思うので、範囲が広いだけにそこを書いてもらいたい。
- 「地域のウェルフェアを極大にする」ことは、安全保障、経済、環境問題もすべてを含み、住んでいる人たちの生活が向上することに繋がるので、大枠の目的として入れた方が良いと思う。

**【官澤委員】**● **【定義】****(1) 「地域外交とは」について**

- 「国家間の外交を補完する」という表現については、国の役割との相対的關係で、マルチトラック外交の地方自治体、NGO、民間などの役割が強まっているので、国と地域外交を行う自治体とは相互互恵的な関係なので「連携」というニュアンスの書き方がよい。

**(2) 「沖縄型地域外交とは」について**

- 定義に「日本政府とも連携し」とあるが、国との連携だけでなく、他の志を同じにする地方自治体と連携することも加えて、「日本政府、地方自治体とも連携し」とした方がよい。
- 「各国・地域と二国間及び多国間関係を構築し」とあるが、県なので「二国間」「多国間」ではなく「重層的な」「多面的な」とした方がよい。

## 【久保田委員】

## ● 【定義】

## (1) 「地域外交とは」について

- 「国家間の外交を補完する」という表現については、国と同じ方向を向いて国際平和、地域の安定と繁栄といった大きな目的を目指し推進していくのであれば「補完」ではなく、「アクセレレートする」とか、「強化する」とか、もう少しポジティブな言葉にすることが可能だと思う。

## (2) 「沖縄型地域外交とは」について

- 「国際規範や国際的に普遍的な価値に基づき」と入ることは、世界的にも共感される度合いが高まる良いメッセージだと思うが、ここに沖縄の従来の価値観との相関関係、例えば沖縄独自の価値観とのポジティブな関係がさらに加えられると、沖縄型地域外交の特色がより出せると思う。
- 「二国間及び多国間」は、重層的、多面的という方が良いと思う。
- 「日本政府との連携」のところは日本政府だけでなく、地方自治体との連携を並列に書くことも検討して良いと思う。

## (君島委員長コメント)

- 「沖縄独自の価値観とのポジティブな関係」については、「共鳴する」とか「響き合う」、英語で言うとレゾネイト (resonate) という言葉が浮かんでくる。

## (久保田委員コメント)

- そういった言葉が「沖縄型地域外交とは」の最初のところに入っていた方が、説得力があり、メッセージがクリアになると思う。

## 【水澤委員】

## ● 【定義】

## (1) 「沖縄型地域外交とは」について

- 「沖縄県が」としてしまうと、どうしても県庁がやっていくように捉えられてしまう。
- 沖縄型地域外交は、沖縄のいろいろな主体とやっていくことであることをわかりやすくするために、市民、あるいは沖縄県の企業、NGO などの言葉を入れると良いと思う。

## 【小松委員】

## ● 【定義】

## (1) 「地域外交とは」について

- 地域外交の主体は、人と予算を提供することと、外交という以上リスクを抱えることから沖縄県と明示した方が良いと思う。
- 「国家間の外交を補完する」という表現については、地域外交は、学問上の自治体による補完外交か、対抗外交かという話になるが、補完外交とすると国交のない地域と関係を結べないのか、といった論点が出てくるので補完と書かない方が良いと思う。

- 世界平和や地域の安定・繁栄を目指すという意味では対抗外交とはなりえないので、補完という言葉にこだわる必要はない。「国家間の外交を補完」ではなく、「国家間外交では担えない、独自の役割を地方自治体の主体性に基づいて行う」としてはどうか。
- 地域外交の対象は、海外の地方政府、中央政府、国際機関、そして一般の人々であることを明記した方が良い。

## (2) 「沖縄型地域外交とは」について

- 「沖縄県民の総意に基づき、沖縄県民の利益を国際社会において実現するため」といった文言を入れたらどうか。
- 他の委員から意見があった、定義に「沖縄のウェルフェアの実現」を追加することに同意である。

### 【井瀧委員】

#### ● 【定義】

- 静岡県の地域外交基本方針の冒頭にある趣旨説明では「県民と協働し取り組む」とあり、まとめの部分でも「県民とともに推進する」という文言で締めくくっており、県が主体であるということがわかる一方で、その県民と一緒に取り組む意思を感じることができる。
- 定義は非常に大切だが、なぜこれに取り組むのかというメッセージが、しっかりと伝えたい人（一緒に取り組むプレイヤー）に届くように、背景説明や趣旨説明も含めて欲しい。

### 【高山委員】

#### ● 【定義】

#### (1) 「沖縄型地域外交とは」について

- 沖縄の地域外交が「国のために何ができるか」ということを示す必要がある。
- 1点目は、「国家間の外交を補完」するということでは、沖縄県が平和拠点として、第2次世界大戦で日本が侵略し、それが反日感情となっている地域との交流をより強固にしていくことが、沖縄県だけではなく、日本（全国）のためになると思う。
- もう1点は、伸びているアジアなどのグローバルサウスを沖縄経済に取り込み、発展させることが、全国の経済にも波及すると思う。

### ≪君島委員長のまとめ≫

「沖縄県の地域外交の方向性」に関しては、委員から問題提起された「自由で開かれたインド太平洋の概念」と「沖縄経済の発展」の2つについて、日本全体の方向性と沖縄県との関係についてどう考えるかということが論点であると感じた。

#### (1) 自由で開かれたインド太平洋との関係

- 倉科委員は、日本の外交の重要な方向性である「自由で開かれたインド太平洋」と沖縄県の地域外交がどういう関係があるのかということの問題提起された。

- 定義の中に「自由で開かれたインド太平洋」という言葉を入れる必要はないが、日本国家の方向性との関係で、沖縄県がどういう関係を持つかという問題意識は必要である。

## (2) 沖縄経済の発展

- 高山委員、富川委員からあった沖縄経済の発展。自立経済というのは、地域外交基本方針の1つの大きな柱であると同時に、その自立経済の発展が日本経済全体にどのようなプラスの影響を持ちうるかという問題提起された。

### 《意見交換》

#### 【久保田委員】

- FOIP（自由で開かれたインド太平洋）で日本政府が主張している1つの大きな柱は、法の支配というところだと思う。その法の支配は「国際的な普遍的な価値」であり、そこはまさに定義に入っている「国際的な普遍的な価値」と重なるので、各論で具体的にすることが世界情勢を見ると妥当だと思う。

#### 【小松委員】

- FOIP は日本外交におけるアジア太平洋からインド太平洋への移行で、アジアをこれまでほどは重視せず、インドにまで広げていこうという現在の政権の変化がある。沖縄がアジア重視であればこれをどうするのか、という話にはなる。

#### 【久保田委員】

- FOIP は範囲が広いが、アジアのウエイトが下がっているのではなく、アジアが重要だからインドまで広げているという捉え方が近いと思う。

#### 【君島委員長】

- インド太平洋、インドパシフィックという言い方が最近よく使われるが、久保田委員のおっしゃる通りで、決してアジア太平洋を否定する概念ではなくて、広げた概念だと思う。
- インド洋と太平洋を両方つなぐという意味では、海洋国である琉球国を継承する沖縄県としては、インド洋、太平洋両方カバーするというのは沖縄として違和感はないと思う。
- 富川委員もインドの話をしており、そこについて小松委員は意見がいろいろあるとは思いますが、よろしいか。

## 2. 沖縄県の地域外交の取組・戦略について

### 【富川委員】

#### (1) 今後求められる沖縄型地域外交

- 工程表を策定して担保を取る必要がある。
- 島嶼経済においては「外とのネットワーク」は極めて重要であり、地域外交によって経済圏の拡大・拡充を図る必要がある。

- 経済圏は、ネットワークによる比較優位の生産要素の組合せによりビジネスの創出と経済活性化が実現する空間・エリアである。
- 地域経済圏の場合には、国の枠組みではなくて、地域ごとの連携がある。
- 10年前に日経ビジネスが沖縄経済圏の特集を組み、沖縄経済の発展可能性を指摘していたが、予測したことが顕在化している。私の資料に「マーケットが認める沖縄」と書いたが、基地跡地利用の新都心、ライカム、北谷町の美浜地域は、かなり活性化をしており、これは基地が沖縄の発展可能性をフリーズしてきたのではないかと考えている。
- 沖縄がここまで活性化した理由は、「東アジアの中心に位置する」「歴史、文化、風土によって人を引き付けるソフトパワーを有している」「人口・生産年齢人口」「Well Being(住みよさ、暮らしよさ、快適さ等)がある」「広大な海域を有している」などの比較優位を沖縄が有していることによる。
- 新・沖縄21世紀ビジョン基本計画の計画概念図の真ん中にあるのが「ウェルビーイング」で、県ではウェルビーイングという言葉で「安全・安心で幸福が実感できる島の形成」と解釈している。

## (2) 沖縄型地域外交の戦略

- 沖縄の比較優位を示しつつ、以下の地域外交を進めるべきである。
- ロジスティックバッファーとしての那覇港（福建省などの中国と地域外交で交渉していく）
- 沖縄県事務所の拡充（上海、香港、ソウル、シンガポール、台北に続いてインド事務所の設置）
- 南アジアの展開 グローバルサウスへのアクセス・プロモーション  
インドの都市と沖縄の交流・連携、IIT: Indian Institute of Technology との IT 技術の連携
- 福建省との県省友好関係の拡充・経済交流（経済団体を連れて行くなど）
- 台湾スオウと与那国の経済連携
- 文化・スポーツ交流（空手）
- 世界の沖縄人 WUB とのビジネスに関するヒューマン・ネットワークの拡充

## 【官澤委員】

### (1) 沖縄型地域外交の戦略

- 行政官的な観点からコメントすると、外交は予算も人的体制も組みづらく、それは沖縄県でも同じことが言えるのではないか。
- 地域外交基本方針ができて、地域外交室が司令塔となって部局横断的かつ戦略的に取り組むのであれば、実践的で強力な実施体制とフォローアップ体制を作って、それを基本方針に具体的に明記した方が、絵に書いた餅にならないと思う。
- 地域外交という切り口で地域外交室が部局横断的にまとめる司令塔的な役割を確保するには、三役に強力なコミットメントをしてもらうなど地域外交室の権限を強化することが良いと思う。
- フォローアップ体制は、予算の倍増とか、地域外交室の人員の倍増とか、国際会議を 10

年以内に誘致するとか、わかりやすい数字の目標を作って、フォローアップすることが、地域外交を強力に進めるには重要だと思う。

- フォローアップはできるだけシンプルにして、わかりやすい目標をセッティングして、それをチェックするだけの簡単な仕組みが良いと思う。
- 結局、外交というのはマンパワーと予算だと思うので、それを基本方針か、細則などに明記すると良いと思う。

## 【高山委員】

### (1) 沖縄型地域外交の戦略

- 「国別・地域の戦略」の重点地域に、中国本土、韓国、台湾、香港の次にシンガポールを追加して、その次に ASEAN とした方が良い。シンガポールは沖縄にとってモデルとなるような地域として、繋がりを持って行くべき大切な国。
- 「分野別の戦略」に在沖米軍基地問題について県益と国益の相反するところの表現をどうするかが気になる。
- 海外と交渉する場合には、経済やその他の様々な分野で証拠を持つ必要があり、県庁の職員を海外に出して情報収集し、日常の中で検証することが非常に大事である。
- 地域外交では、相手の気持ちを知り進めることが大切である。特に台湾と中国の交渉には、事前の根回しが重要となる。
- 地域外交には人材が極めて重要なので、県庁職員をもっと海外に出して、将来のための人材を育成して欲しい。

## 【水澤委員】

### (1) 沖縄型地域外交の戦略

- 予算と体制が気になっている。
- 予算は限りがあると思うので、いかに市民や民間団体の取組を県が後押しし、環境整備していくかが重要になると思う。
- 地域外交の取組としては、沖縄県と市民が、平和活動、文化交流活動、経済活動などの各分野の活動を活発化させるということと理解している。
- 実施体制としての地域外交室と担当の部局とはどのような関係となるのか。また地域外交に定量的な指標を設けた場合、その取りまとめはどこが行うのかなど疑問に思う。

### (事務局からのコメント)

- **予算について**  
同時平行で次年度予算を調整しているが、委員の皆様からのご意見も含めて、できるだけ予算に反映させていくように努力していきたいと思う。
- **実施体制について**  
地域外交室は、県庁内の各担当部局と連携して、部局横断的に進めていくという役割を担う。  
また、それを担保する仕組みとして、全庁の各部局長で構成する知事をトップとする

地域外交推進本部を9月に立ち上げており、その下に連携会議、連絡調整会議を設けている。

### 【久保田委員】

#### (1) 今後求められる沖縄型地域外交

- 「地域外交推進のポイント」の「沖縄県のソフトパワーの活用」については経済振興とか自立経済の確立を念頭において書かれているが、ソフトパワーをどう活用したいのかという戦略を表した方が良いと思う。
- 富川委員の説明で「新・沖縄 21 世紀ビジョン基本計画の理念においてウェルネスが中心概念としてある」ということでしたがグローバルで大きなトレンドとなっている概念の「ウェルネス」が、沖縄としての中心的な概念であれば沖縄型地域外交の戦略に反映させた方が自立的経済に資する重要なファクターになると思う。

#### (2) 沖縄型地域外交の戦略

- 国・地域別戦略については、戦略的に国レベルでプライオリティーをつけて MOU を結ぶとか、トップ外交をやるというのも重要だが、限られたマンパワーでどれだけ早く世界のトレンドに追いついて、世界各国の自治体と競争しながら実質的なビジネスを生み出すのか、人の流れを生み出すのか、これらになかなか結びつかないところがあると思う。
- 「分野別の戦略」として、沖縄が強いところ、もしくは弱くて強化したいという観点から産業や分野を特定して関係を強化していく方が、効率的に結果を出すことが可能で、県民にも還元できるのではないかと思う。
- 機動性とかスピードというものが昨今はすごく大切だと感じており、それこそなかなか国が手当できないところだと思う。
- 世界の動きが本当に加速度的に速くなってきていて、特にビジネスは、環境関係の規制とか、ビジネスと人権とか、もろに経済活動、商業活動に反映してくるスピードが早くなってきていて、それらに迅速に対応するのは国レベルでは難しい。
- そういったスピードとか起動性というところに、地方自治体に対応できるとしたら、それはとても有意義なことで、地域振興にも繋がると思う。

### 【倉科委員】

#### (1) 今後求められる沖縄型地域外交

- 「地域外交を行う必要性」については、なぜ、何を指して、それが沖縄県民にとってだけではなく世界の人々にとってどういう意味があるのかを書いた方が良いと思う。
- 「県の地域外交展開の課題」は、1 歩踏み込んで、具体的な体制まで書いた方が良い。

#### (2) 沖縄型地域外交の戦略

- 「国・地域別の戦略」「分野別の戦略」の2つの関連性がわかりにくい。
- 「国・地域別の戦略」は、対象が狭くなりすぎないようにするという観点で、国名等細かいところを入れて書かない方が良い。

#### (3) 沖縄型地域外交の理念及び目指す姿

- ・ 非常に重要なところで、説明を厚くできると分かりやすいと思う。

#### (4) 重点的な取組

- ・ 地域外交を担う人材育成については、県庁の人材だけでなく、将来的に地域外交を担っていただける人材まで幅を広げて書いた方が良い。

#### 【井瀧委員】

##### (1) 今後求められる沖縄型地域外交

- ・ 「地域外交推進のポイント」に「トップセールスによる県外、海外との交流の創出・発展」と書いてありますが、トップセールス以外に実務者レベルの協議や担当者レベルでの連絡会議なども外交の一翼を担っているので、幅広い表現にした方が良いと思う。

##### (2) 沖縄型地域外交の戦略

- ・ 「分野別の戦略」は外部の取り込みの内容が薄いように感じた。例えば「分野別戦略の整理イメージ」の科学技術の戦略は、どちらかという技術協力の要素が強く、外部の先進的な技術やビジネスモデルの取り込む観点も必要だと思う。
- ・ 技術、ビジネスモデルを取り込むことによって、生産性、付加価値を高めることができれば、新しいイノベーションにも繋がり、沖縄県の目指す県内企業の稼ぐ力の強化にもなると思う。
- ・ 「分野別の戦略」にある平和関連の政策の実像が見えにくい。ここはもう少し丁寧に記載しても良いと感じました。
- ・ 沖縄のファンとなった外国人からの発信を考えると外国人の旅行客、留学生、就業者などの外国人材の取り込みに対する考え方に触れても良いと思う。
- ・ 「分野別戦略の整理イメージ」の観光・経済の分野に「国際物流拠点の形成」だけが記載されているが、アジア経済戦略で掲げている様々な拠点を明記するか、「ビジネス交流拠点の形成」とするなど検討した方が良いと思う。

#### 【小松委員】

##### (1) 今後求められる沖縄型地域外交

- ・ 地域外交推進のポイントについて沖縄の「ゆいまーる」「ちむぐくる」「ぬちどうたから」などが意味するところを英語で表した上で、「ぬちどうたから」は「人間の安全保障」であり、国際的な規範と一緒に示したら良いと思う。
- ・ 地域外交を主体的に実施できるようになったのは沖縄県になって初めてなので、戦後沖縄史の経緯を入れた方が良いと思う。すなわち、沖縄返還、日本復帰というのは平和と民主主義の希求、自治の希求の結果、民主主義の成果のひとつとして地域外交を位置付ければ良いと思う。
- ・ ソフトパワーは、経済的な分野のみならず、安全保障上も重要だと思う。
- ・ 沖縄がどのような地域かということを世界中の人に知ってもらい、何かあった時には「あの沖縄だ」となると違うと思う。そういう意味でパブリックディプロマシー（広報文化外交）も重要だと思う。

##### (2) 沖縄型地域外交の戦略

- 「国・地域別の戦略」に条約に比類する姉妹都市・友好都市提携を入れるべきだと思う。姉妹都市は基本的には首長+議会の承認があり、国家間で例えれば条約になる。MOUは行政機関同士、首長同士で結べる協定でしかない。
- 「分野別の戦略」は、「安心・安全分野」と「危機管理分野」がどう違うのかうまく理解できなかった。このような分類の仕方より、「沖縄型地域外交の理念及び目指す姿」に示した3つの姿に各部局がどのように貢献できるかに分類した方がすっきりすると思う。

### (3) 重点的な取組

- 海外事務所を増やすことも重要だが、1つ1つの能力を高めることも重要だと思う。
- 地域外交に関する文書を適切に保管、管理して引き継いでいくことは、地域外交能力の強化にも繋がる。

## 3. 今日の議論に対する意見

- 一つ目は、地域外交のリスクとして、領土問題や歴史認識問題など、非常にセンシティブな問題、相手側のナショナリズムを刺激するような問題については、特に慎重にならなくてはいけない。もしその旨を提言の中に入れるのであれば、「原則として日本政府の立場を尊重しながらも」という前提を入れて書いても良いと思う。
- 二つ目は、前回、君島委員長からお話があった「5つの辺境」というキーワードについて。地域外交というとインド、中国、アメリカなど、大国に目を向けがちだが、沖縄と同じような歴史、経験を持っている台湾、朝鮮半島、香港などの辺境と言われる地域の方が沖縄の立場を理解してくれると思う。
- 三つ目は沖縄の強みについて。沖縄の強みは2大ネットワークだと思っている。1つはアジア、もう1つは県系人。ここで言うアジアとの繋がりには歴史的な経験と近隣性。もう1つの県系人は、世界に広がる「うちなーんちゅネットワーク」を指す。この2大ネットワークを活用することも書いて良いと思う。
- 四つ目は、官澤委員も言及していた他の自治体との連携。今、地域外交課を持っているのは静岡県と群馬県だが、「静岡県知事と群馬県知事と沖縄県知事による地域外交をテーマとしたシンポジウムの開催」など、積極的な連動や情報共有などができるのではないかと。なぜ自治体が地域外交をやらざるを得ないのかということ、日本国民に訴えるということも重要ではないかと思う。

### (倉科委員のコメント)

- 小松委員の発言にあった県系人のネットワーク「ウチナーネットワーク」の力は非常に大きいと思う。それは地域外交というか、平和の意味でも、経済の意味でも、いろいろな意味で非常に重要なものとなり得る他の日本の地域にない特別なもの。この点については戦略の中で大きく取り上げていただいても良い重要なものだと思う。

## 《君島委員長のまとめ》

- 一つ目は「分野別の戦略」というところで小松委員から「安心・安全分野と危機管理分野がどう違うのか整理の仕方がわかりにくい」という話があった。これは地域外交室の極めて熟慮、苦慮されたことだと私は思う。私なりの言い方をすると「国家安全保障と人間の安全保障の相克」というテーマだと思う。
- 国家からすると国家安全保障（日米安保体制）は重要なテーマだが、沖縄県からすると「ぬちどうたから」、人間の命の保障、つまり人間の安全保障の追求が大きなテーマとなる。日米安保体制が沖縄における人間の命の保障、人間の安全保障を脅かしてはいけない。この相剋をいかにうまく表現するか、苦心の結果、わかりにくくなっていると思うので、これからもう少し工夫をして、賢明な書き方をしていただきたい。
- 二つ目は、「分野別の戦略」の沖縄の重要な産業の観光と平和をつなぐピース・ツーリズムという言い方があり、広島市が積極的に展開している。沖縄でも、戦略的にピース・ツーリズムというものをこの中に入れ込むことはできると思う。同時にダーク・ツーリズムという言葉もあり、これは過去の戦争とか様々な悲劇的な出来事の跡地を訪れて、そこで慰霊追悼し、同時に学ぶという1つの方法で、ダーク・ツーリズムとピース・ツーリズムはある種、重なり合う、表現の違いであって、同じことを指している場合もある。沖縄は、まさにこのピース・ツーリズムあるいはダーク・ツーリズムの概念が、うまくフィットする、発展させるうところだと思う。その可能性、ポテンシャルはすごくたくさんあって、そういうことも地域外交基本方針には書き込めるのではないかと思う。